

ピロリ菌について



町立金山診療所
医師 桃崎 孝

本格的な寒さが身に染み、春の便りが待ち遠しいこの頃です。私は山形県立新庄病院で消化器内科を担当している桃崎孝と申します。昨年の4月から、毎週金曜日に町立金山診療所で、主に上部消化管内視鏡(胃カメラ)と腹部超音波検査を担当しています。

この菌の感染経路ははっきり分かっていませんが、原因の一つに井戸水も挙げられています。金山町では多くの家で井戸水を利用されているとのことなので、他の地域よりも知らずに感染されている方は多いかもしれません。この細菌の怖いところは、実際に潰瘍や癌になるまで症状が何もないことがあげられます。ピロリ菌は乳幼児の頃に感染し、少しずつ胃の粘膜を変化させていき、年齢を重ねていくうちに突然胃癌になって症状として出現することもあります。

それを防ぐために一番大切なことは、胃カメラで症状が出る前に早期に発見し、除菌することです。事実、ピロリ菌が広く知られるようになり、健診で胃カメラをする人が増えることで胃癌の数、特に死亡者数は如実に減ってきています。



健康な胃 ピロリ菌 胃潰瘍・胃がん

ピロリ菌に感染してしまうと、除菌をしてもすべての胃癌を防ぐことはできませんが、可能性を下げる事が出来ます。感染された方には年に1回の胃カメラをお勧めしています。診療所では胃カメラを口からでも鼻からでも行うことが出来ます。まだ一度もカメラをしたことがない人も、はるか昔に受けてその後やっっていない方も、ぜひぜひカメラを受けてみてください。またピロリ菌に限らず、胃や腸のことで気になることがありましたらいつでもご相談ください。

ーわたしと金山ー No.8

仙台から東京へ

林 寛治

昭和28年(1953)夏に父の転勤で家族は東京にもどりました。私は高校2年を済ませてから半年遅れて合流しました。金山への疎開以来、10年振りに家族揃っての生活となったのです。父53歳、母44歳、社会人2年目の秀太郎23歳、寛治(高3)17歳、隆三(小4)10歳という家族構成でした。品川区旗の台の家はもともと、隆三の学校が至近であるという理由から父が選んだ勤務先の借上げ社宅で、昭和2年築、南京下見張り、玄関わきに6帖洋間の応接室があり、奥に1、2階とも6帖、8帖続きの和室があるという、いわゆる昭和初めの標準住宅でした。

昭和4年の恐慌時に大学を出て勤め人になった父は、仙台での住宅新築や本郷・四谷時代を通じても、家は借りて住むものという考え方で、安い大工道具など買って眺めたりしていたわりに、住まいには無頓着でした。一方母は、近代(モダン)住宅

の雑誌や民芸を手にするなど、手に届く範囲で生活を楽しんでいました。山形第一高女時代は山形女子師範と寮が共同だったらしく、クラスメートの他に上・下級生の隔てなく、友達付き合いは密だったようで、2年上の浜江ちゃんこと画家の桜井浜江女史、2年下のカンコちゃん・金子てい女史(外村繁夫人)とは行き来が密でした。またイチヤマのモンちゃん・志田(岸)もん夫人と、ツウちゃん・伊藤(岸)千代子夫人が第一高女の各2・4学年下に続いたので、静岡で療養中だった岸英二氏も加わって、その縁から芹澤銈介門下の染色家・三代澤本壽氏を知り、さらに三代澤氏から濱田庄司先生を紹介されると、生活美に浸ることが本郷時代から始まりました。

そういった母の影響もあってか、私は全く事前の準備も無しに藝大受験を志望しました。その際父が「うちには、(美術方面の)マキ(血筋)は無いが」と言ったところ、母が「勤め人のマキなんて無いでしょう」と応援してくれたのです。案の定浪人となりましたが、炬燵で団欒を楽しんでいると、「ほら、ほら落第坊主は2階が上がって勉強・勉強!!」と母か

ら度々言われました。3度目の受験でようやく合格した藝大の入学式では、哲学者の上野直昭学長が「10年間の入学者の中で、真の芸術家になれるのは一人位だと自覚して鍛錬しろ」と訓示され、有難くわが身に刻んでおります。母は、私の卒業直前の昭和30年(1960)暮れに自宅で死去しました。50歳でした。私が「金山のまちづくり」に関わらせていただくことになるとは、思いもしなかったでしょう。

母を亡くした3か月後に卒業し、同年8月末から6年間のイタリア生活、帰国後は吉村順三教授の事務所で7年間修行、すなわち1961年から1974年までの13年間、私は金山を訪れる機会があまりありませんでした。



1960年秋・卒業制作時、スクオヴァレー・オリンピック選手の栗田栄治君(左)と日大スキー部・高橋四郎君(右)が旗の台の家に遊びに来てくれた。

山形県では昨シーズン(令和2年12月~令和3年3月)に人的被害を伴う事故が191件発生しました。特に65歳以上の高齢者の方が事故に遭うケースが多くなっています。8つのポイントに注意して、雪下ろし作業は安全に行いましょう。また、除雪機での作業も十分注意しましょう。

安全な雪下ろし作業「8つのポイント」

- ① 気温が高い時は屋根の雪のゆるみに注意!
- ② ヘルメットを着用し安全な服装で作業しましょう!
- ③ 転落防止のため命綱を使いましょう!
- ④ はしごはしっかり固定しましょう!(足元も先端も)
- ⑤ 使いやすい除雪道具を使いましょう!
- ⑥ 2人以上で作業しましょう!(携帯電話を持って)
- ⑦ 無理な作業はやめましょう!(休憩をとりながら)
- ⑧ 足場はいつも注意!(軒先は危険。足場は慎重に)

雪害事故を防止しましょう!



★事故が起こりやすい場所をしっかりと把握し、安全な服装で歩行するようにしましょう。※歩行中の事故については交通災害共済の対象とはなりませんのでご注意ください。

●雪道を安全に歩くポイント
歩幅を普段よりも小さくし、そろそろと歩く「ペンギン歩き」を基本に、靴の裏全体を路面に付けて歩くことを意識しましょう。履物はなるべく靴底が滑りにくいもの(摩擦係数の高いゴム長靴等)を選ぶようにしましょう。どんなに気を付けていても転んでしまう場合がありますので、帽子や手袋を身に付け、転倒時のケガを防止することも大切な安全対策のひとつです。歩行中はポケットに手を入れないように心がけ、付近の屋根などにも目を配りながら歩くようにしましょう。また、飲酒時はバランス感覚が鈍くなり転倒の危険が大きくなります。



交通安全コラム 第2回
歩行中の雪道で起こりうる事故



たとえ雪が多く降っていなくても、凍結等を原因とする転倒災害は多く発生します。

●どのような時に転倒してしまうの?

横断歩道の白線の上は乾いているように見えても薄い氷膜ができ、滑りやすくなっている場合があります。車の出入りが多い歩道(駐車場の出入り口、ガソリンスタンド等)や、バス、タクシー乗場についても路面が凍りやすく、非常に滑りやすくなります。また、坂道やロードヒーティングの切れ目などについても部分的に滑りやすくなっています。